

意味で用いています。前問の図を参考にしながらお読みください。

○ 復元抽出の場合

$N^n$ 組の標本のうち、第 $i$ 番目の標本について考え、この標本分散を  $s_i^2$  としますと、

$$s_i^2 = \frac{1}{n} \sum_{j=1}^n (a_{ij} - \bar{x}_i)^2 \dots \dots \dots \textcircled{1}$$

$$= \frac{1}{n} \sum_{j=1}^n a_{ij}^2 - \bar{x}_i^2$$

よって、標本分散たちの平均値は、

$$\frac{1}{N^n} \sum_{i=1}^{N^n} s_i^2 = \frac{1}{N^n} \sum_{i=1}^{N^n} \left\{ \frac{1}{n} \sum_{j=1}^n a_{ij}^2 - \bar{x}_i^2 \right\}$$

$$= \frac{1}{n} \cdot \frac{1}{N^n} \left( \sum_{j=1}^n a_{1j}^2 + \dots + \sum_{j=1}^n a_{N^n j}^2 \right) - \frac{1}{N^n} \sum_{i=1}^{N^n} \bar{x}_i^2 \dots \dots \dots \textcircled{2}$$

ここで、( )内の  $a^2$  の数は、結局は  $a_1^2 \sim a_N^2$  が同数ずつあるのですから、前問の図より、 $a_i^2$  1つ当たり  $n \times N^n \div N = nN^{n-1}$  個あることがわかります。

また、 $\frac{1}{N^n} \sum_{i=1}^{N^n} (\bar{x}_i - m)^2 = \frac{1}{N^n} \sum_{i=1}^{N^n} \bar{x}_i^2 - m^2$   
 (前問の結果より)  $= \frac{\sigma^2}{n}$

$$\therefore \frac{1}{N^n} \sum_{i=1}^{N^n} \bar{x}_i^2 = \frac{\sigma^2}{n} + m^2$$

よって②は、 $\frac{1}{N^n} \sum s_i^2 = \frac{1}{n} \cdot \frac{1}{N^n} (nN^{n-1} \sum_{i=1}^N a_i^2) - \left( \frac{\sigma^2}{n} + m^2 \right)$   
 $= \frac{1}{N} \sum_{i=1}^N a_i^2 - \frac{\sigma^2}{n} - m^2 \dots \dots \dots \textcircled{3}$

ここで、前問(準備1)より  $\frac{1}{N} \sum_{i=1}^N a_i^2 = m^2 + \sigma^2$

よって③は、 $\frac{1}{N^n} \sum s_i^2 = \sigma^2 - \frac{\sigma^2}{n}$

$$\therefore \frac{1}{N^n} \sum s_i^2 = \frac{n-1}{n} \sigma^2$$

$$\therefore \frac{1}{N^n} \sum \frac{n s_i^2}{n-1} = \sigma^2 \quad \textcircled{1} \text{より } n s_i^2 = \sum_{j=1}^n (a_{ij} - \bar{x}_i)^2$$

$$\therefore \frac{1}{N^n} \sum \left\{ \frac{1}{n-1} \sum_{j=1}^n (a_{ij} - \bar{x}_i)^2 \right\} = \sigma^2$$

これは、 $\frac{1}{n-1} \sum_{j=1}^n (a_{ij} - \bar{x}_i)^2 = s_i'^2$  たちの平均値が、母分散  $\sigma^2$  に一致していることを示しています。

○ 非復元抽出の場合

この場合も、復元抽出の場合と全く同じなのですが、一応証明を述べておき